地中海・エーゲ海くルーズ17・2010（4）

■**ギリシャ・カタコロン入港□第5日目**】・（平成22年）2010.2月24日

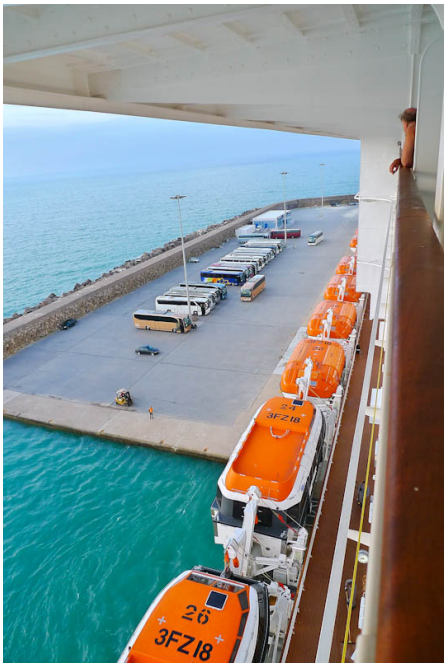
□**オリンピア遺跡を訪ねる**□

船は、クルーズ最初の寄港地、**ギリシャ・カタコロン港に**

□**am 8:00に入港**□

そして今日は、クルーズ最初の**寄港地観光**である。　**古代ギリシャオリンピックの発祥となった「オリンピア遺跡」と「考古学博物館」の見学**が予定されている。

そのオリンピアに一番近い港がこの「カタコロン港」で、近年多くのクルーズ船が寄港するようになっていると聞いた。



船内新聞によると、今日の寄港地・**ギリシャ・オリンピアの気温は、最高16℃/最低が6℃**となっている。下船しての観光には、軽い防寒対策が必要かなと….そんな仕度をした。

□

何時ものように、**14デッキの□ボラボラカフェテリア**」で**ビュッフェスタイルの朝食□□料理の種類とその量を、自分流に皿に盛っての食事は、ストレスがなくてなん**

とも良い。
　am 8: 50に7デッキのザ・アフトラウンジに集合して下船する。そして、バスに乗り込み、およそ45分の移動となった。
　
　4年に一度開催されるスポーツの祭典オリンピック。その発祥の地がオリンピアだ。現在でも、オリンピックの聖火は、ここにある古代オリンピア遺跡の「ヘラ神殿」で

採火される。

オリンピックの名の派手なイメージとは裏腹に、オリンピアは美しい山間にある人口1,500人ほ

どの小さな田舎町なのである。
オリンピアの遺跡は、神殿が建てられていた「聖域のエリア」と古代オリンピック

大会に使用されていた「**競技場や宿舎のエリア**」に別れていると聞いた。

それらを順に見学してゆく予定であったが、あいにく職員らのスト中に合い、エリアには入れず。仕方なく遺跡の囲いの外からの見学となった。

　そして、歩いてすぐそばにある「**オリンピア博物館**」へ移動。

オリンピア遺跡周辺からの出土した、オリンピックの歴史を物語る貴重な品々を展示している。代表的なものは、**ゼウス神殿を飾っていた「東西の破風」のレリーフ**（浮き彫り）である。「破風」は、神殿の屋根の下の三角部分を指す。

また「**勝利の女神ニケ像**」は、オリンピアにふさわしい出土品であり、発見された当時のまま

の姿に戻して展示してあった。

パリ・ルーブル美術館の至宝「サモトラケのニケ像」が超有名ではあるが、ここオリンピア博物館のニケ像も、それに負けず劣らない立派なものであると思った。

オリンピア博物館の見学を終えて、その直ぐ近くの土産品店に行く。

遺跡から出土した彫刻などを模した土産品が並んでいる。

持ち帰りたいと思うものもあるが、なんせ重いし壊れやすい。

そうしたことから土産には「Tシャツ」にすることが多い。

オリンピアの観光を終えて、スブレンディダ号が待つカタコロン港に戻った。

カタコロンはピルゴス地方の西に位置する海沿いの町である。町の中心からは、イ

オニア海が見渡せる

昼食は、乗船して船内のレストランでも食べられるのではあったが、**出航時刻のpm 5:00**までには随分時間がある。

そこで、**この港の海沿いのレストランで、パスタの昼食**をとることにした。

ここのロングパスタは、私たちの味覚に合っていて、とても美味い！

満足な昼食を終えて後、この港町のお店を覗く。

真っ青な空・紺碧の海・そして太陽と白い壁…あこがれていたエーゲ海クルーズ。だけど….日本から遠いこの地まで、よくやって来たものだとふと思った。この素晴らしい景色に誘われて、何枚もシャッターを切ったものだ。

そうしながら、ゆっくり歩いて船に戻ったのは...pm2:00頃だった。こうした、**およそ半日の寄港地観光は、のんびりとしていて、さほど疲れも感じない**

クルーズならではの観光の良さが少し解った一日となつた

キャビンでひと休みしたあと、**船内探検**に繰り出す。**欧米の人たちがデッキを埋め尽くして日光浴している**

私たちには真似が出来ない光景である。**カフェでエスプレッソとジェラードを楽しむ。ジェラードは、もちもちと粘りがあって美味しい。**　そして船内散策…海と空の色がなんとも綺麗。そうした光景をむさぼるように写真に納め、キャビンに戻って暫くお昼寝とした。

「**客室の違いとクルーズ代金**」について考えてみると、**クルーズ代金は、客室のグレードによって変わる**せっかくなので、**豪華な客室で過ごしたいと言うのも一つの考え方だし**、客室以外のサービスは、食事を含めてすべて同じなので、客室にこだわらなければ、**予算に合わせて選ぶことも良しである**

船の揺れは?」と気になる方も多いだろう。今回乗船した「スブレンディダ号」は、全長333㍍・全幅38㍍・135,000トンと安定感は抜群である。**横揺れ防止装置「フィンスタビライザー」もついていて日常的な活動の中で、揺れを感じることはほとんどない**。特別な時化に遭わないかぎり大丈夫である。大型クルーズ船とはいっても、特別な天候によっては状況もことなるであろうから、**心配な方は、酔い止めを事前に服用すれば、クルーズを楽しむことに問題はない**と言って良いだろう。

クルーズの魅力とは?」….いったい何であろうか。　なんといっても**楽しみながら移動が出来ること**ではないだろうか。**気分や体調に合わせて、気ままに幾通りもの過ごし方がセレクトできる**

船内の支払いは、チェックインした時に渡された**クルーズカード**を利用することになる。現金や個人のカードを持ち歩くことは必要がない。**このクルーズカードは、客室の鍵となり、寄港地での乗下船時の身分証明として必要で、船内では、現金を使うことはない**

気が向けば免税店でのショッピングや各種のエンターテイメント、レストランや一面の大海原を見渡す甲板も、部屋を出てエレベーターに乗れば数分でアクセスが可能である。　**思い立ったら、すぐに潮風が心地いい特等席へも行ける**。　考えただけでもワクワクする話しではないだろうか?…そんな**サプライズに何度でも出会えるのがクルーズの魅力と言って良い**
船内新聞のことだが、私たちには、**日本語の新聞が、毎晩、客室に届く**。翌日の船内の予定がぎっしり、レストランの営業時間からドレスコード・ショーの時間・各

種イベントの案内などなど…。新聞を眺めながら、翌日の予定を考えるのも楽しいものだ。…だが、私たちには、ゆっくり目を通す時間がなかった。

船内のレストランは、一つだけではなく、ビュッフェタイプからフルコースが楽しめるものまである。その他には、地中海レストランやメキシコ料理店などの専門店もあった。

残念ながらこの船には「寿司バー」がなかった。　日々、レストランを変えれば、メニューが変わるし、味もかわる。そうして、楽しむことが出来る。

意外とお薦めなスポットは、一番高いデッキから海を始め寄港地の港や街を眺めることである。このスポットからの眺めはまた非日常的で、港から遠くの山肌まで建物が密集している様子など圧巻である。

欧米の人たちの気持ちを少しでも理解しようと、デッキにちょっと寝そべってみた。
私では、どうも周りの雰囲気に溶け込めなくて、やっぱり様にならない。

午後5時、船はギリシャのピレウス港に向けて出航した。これから明日の朝7時30分まで450kmの航海が続く。
次の寄港地では、アテネのシンボル・アクロポリスが楽しみである